

オーロラさんの館



お稲荷さんの家出

作者 フルーツとタルト

M.I

お稲荷さんの家出

昔むか〜し、そう遠くない昔、
流行って流行って仕方のない繁盛店がありました。

雪の降る寒いある日の夜明け前。
祖母、母、私が川の字で寝ていると、なにやら物音が聞こえてきました。

ガタガタ...ゴトゴト.....ガラガラ...

恐る恐る目を開けると、神棚から、ぞろぞろとお稲荷さんの家族が
大移動して行く姿が見えたのです。

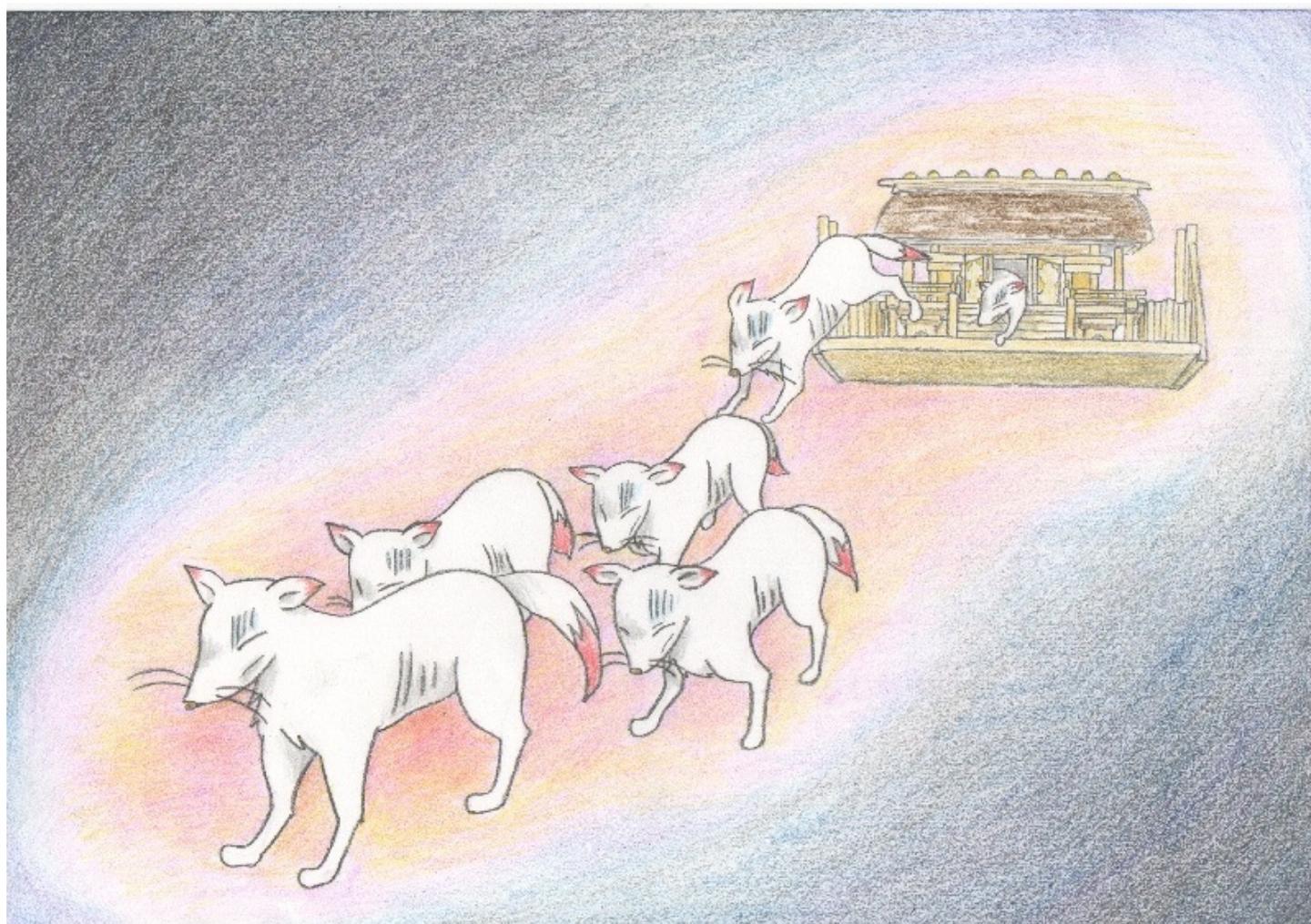
その光景に金縛り...

やがて、最後のお稲荷さんの姿も見えなくなりました。

どれだけの時間が経ったのでしょうか。

「今の...見た...？」

私たち三人は顔を見合わせました。



程なくして、あんなに繁盛していたお店は客足がパッタリと途絶え、
廃業する事になってしまったのです。

それから時は流れ...

ひよんな事で通い始めたオーロラさんの料理教室では、
見えない世界の不思議な出来事について話題が絶えない。

私は、あの日の出来事を思い切って打ち明けてみた。

「あれは一体、どういう事だったんでしょうか...」

オーロラさんは、オレオを撫でながら目を閉じた。

「お稲荷さんは商売繁盛の神様なの。

随分とお客さん呼んで、お金を稼いしてくれたお稲荷さんだったのに...
惜しい事したわね～。

全てに絶望して出て行ったのよ！

日々の売りに上げに“おかげさま”という感謝の気持ちが必要だったわね。
自分たちの力だけではない事に気づくべきだったのよ」

「そのお稲荷さんはどこへ行ってしまったのですか？

もう一度、帰ってきてもらう方法はありませんか？」

「残念だけど、無いわね。全ては手遅れよ。

今はね、きっぷのいい女主人の繁華街のお店でイキイキ働いているわよ」

co le jinsei にもお稲荷さんがいるのかしら？

この世の私たちは、見えない世界と共に生きているという事...？

秋の味覚たっぷり完成した「きのこのテリーヌ」を食べながら、
色々な思いが巡った。

そうだわ！帰ったら稲荷寿司を作りましょう。

家族皆も大好きだったわ！